

A B r i e f N o t e N o . 2 1 5

発行日：2012年9月27日

大雨警報、波浪警報のディープ南紀の旅

吹田市 三輪 長司

この9月17日から2泊3日の行程で、車で白浜以南のディープ南紀へ行った。このとき大型台風16号が東シナ海を北上し朝鮮半島へ上陸した影響で、紀伊半島南部では波浪が高く豪雨も発生した。このため沿岸部には波浪警報が出され、全域には大雨警報も出された。

白浜までは風は強かったが晴れていた。ところが白浜から先の海岸を走る国道42号線に入った途端に天気が急変し土砂降りの風雨になった。道路が川のようになって前がよく見えない。岩礁には波浪が激しくぶつかり海面が真っ白になっている。恐ろしい光景だ。

1泊目の宿は白浜から南へ国道42号線で25kmほどにある日置(ひき)川温泉のホテルだ。このホテル「リバー・ジュ・スパ・ひきがわ」は砂浜の波打ち際に建っている。ピンク色した南欧風の3階建ての建物でビーチリゾートホテルだ。ただしプールや洒落た庭はない。このホテルは合併前の日置川町が建てたものだそうで、現在はリニューアルされ運営のみ外部委託している。このホテルの売りは温泉だ。泉質はPH10でツルツルしていてとても評判が高い。1300m掘って出てきた湯で、町が巨費を投じてボーリングしたのだろう。

ホテルの部屋から眺める海岸の波はゴーゴー唸って迫力満点だ。今年の台風のときは、1階ロビー正面の海に面した大きなガラスが波浪で粉々に割れたそうだ。恐ろしい話だ。

南海地震が叫ばれている折、巨大な津波がくればここは真っ先にやられるだろう。

ホテルの部屋には窓越しに波浪の豪音が一晩中聴こえてきてあまり熟睡できなかった。



《日置(ひき)海岸の波浪》

翌日も土砂降りだった。2泊目の宿はグネグネの国道42号線を海岸沿いに串本経由で80kmほど走った、那智勝浦にある勝浦温泉の国民休暇村「南紀勝浦」だ。風は収まっていたが雨は昨日より激しく、道路掲示板の「大雨警報」が消えない。道路に溜まった雨で時々ハンドルを取られる。この雨ではどこへも行けず、串本で100均ショップ「DAISO」へ入った。

国民休暇村「南紀勝浦」は岬のてっぺんに建っている。昔訪れたときは、薄汚くサービスも悪くイメージが悪かった。その後、改築/リニューアルされ、今回見違えるほど美しくなっていた。和室もゆったりした洋室に改装され、最近新設された露天風呂からの眺望も素晴らしく、朝日が昇る海が見える。今回一瞬だったけれど海に光る朝日が見えた。高級旅館顔負けの設備になっている。この宿は世界遺産に登録された「熊野古道」への基地になっているようで、山歩きの服装をした客の姿が目立った。

3日目にやっと晴れた。そこで那智の瀧へ行くことにした。途中の道はがけ崩れや山津波の跡など、昨年の洪水の爪跡が残っていて信号による片側通行が多かった。

那智の瀧には、西国三十三箇所の一箇所である「青岸渡寺」と、熊野三山の一つである「那智熊野大社」が一箇所にとまっている。ここへ参るには厳しい階段を登らなければならないけれど、特別料金の通行料を払って拝殿の側まで車で登った。大勢の参拝客がいた。

ここ青岸渡寺は一箇所だけれど、一番に回ってはいけないというジンクスがある。叔父はこのことを知っていながら一番に回り、その直ぐ後に車に跳ねられて足を骨折した。こちらはいたって不信心だから、お参りもしないしお札も貰わなかった。



《那智の瀧と青岸渡寺》

大阪への帰路はグネグネ道の海岸を走る国道42号線を避けて、熊野古道へ至る内陸の国道311号線を走った。この道は良く整備されていたが、ここでも昨年の洪水の爪痕が生々

しく残っていた。熊野古道を歩く趣味は持ち合わせていないのでここはスルーした。

南紀それも白浜から南のディープ南紀は風景がガラッと変わる。ゴツゴツした黒い岩だらけの海岸が続き砂浜も黒い砂だ。ハワイ島に黒砂海岸があるがここは正にそれと同じだ。熊野川も清流でしかも河口からいきなり両岸に山が迫り独特の雰囲気がある。

今から 30 年ほど前、写真仲間と初めてディープ南紀へ行ったとき、この独特の景色と雰囲気に参ってしまった。しばらく風景が頭にこびりついて離れないのだ。風景酔いだ。



《熊野川清流》

今回の旅は久々にディープ南紀の温泉と海の幸を味わう旅だった。海鮮類は美味かった。刺身のタイも養殖ものではなく天然ものを使っている。1泊目のホテルのフランス料理風の海鮮料理も美味かった。どちらの温泉宿も個人客で繁盛していた。 ♪♪♪